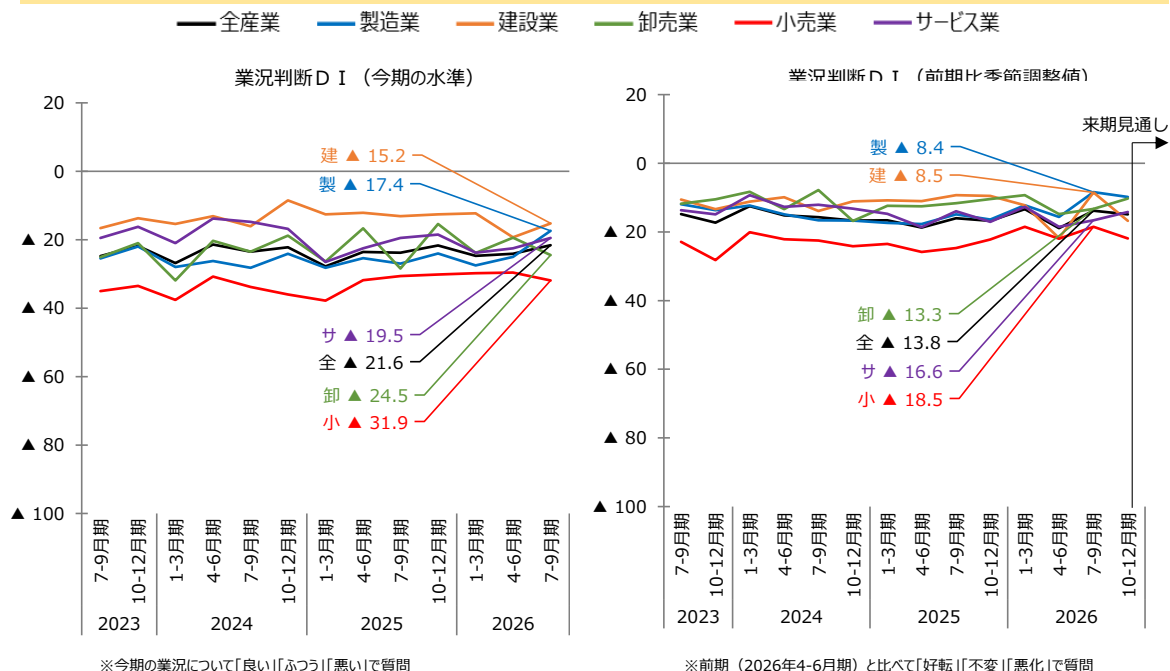


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 近畿

Be a Great Small 中小企業の価値を、
日本の原動力に。
中小機構

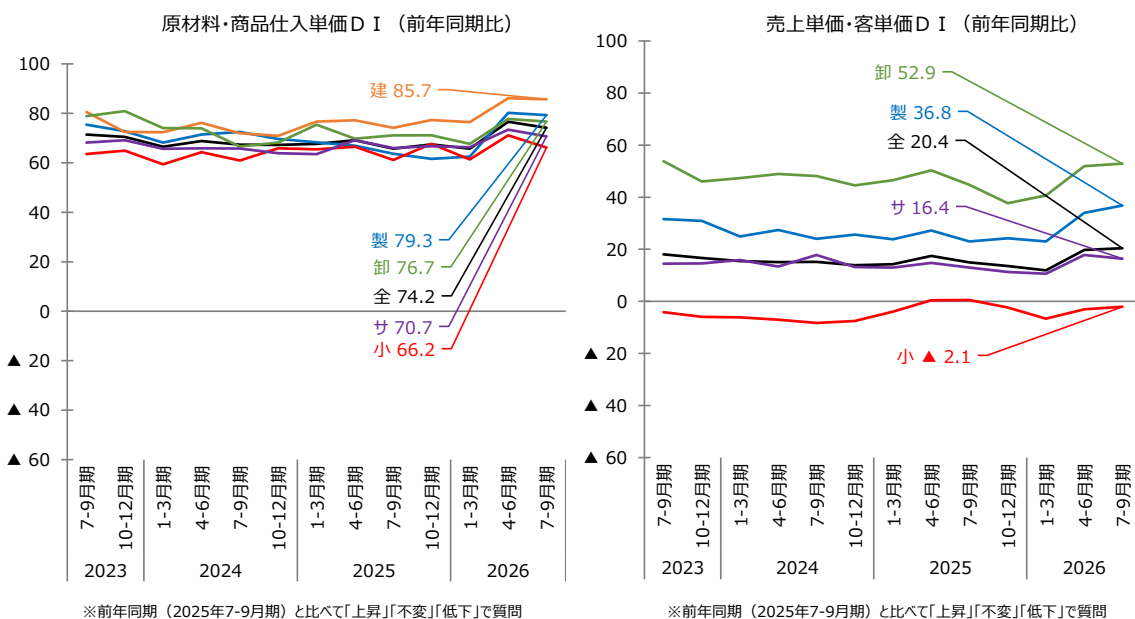
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より2.5ポイント増の▲21.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の74.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の20.4とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、近畿：2,527企業

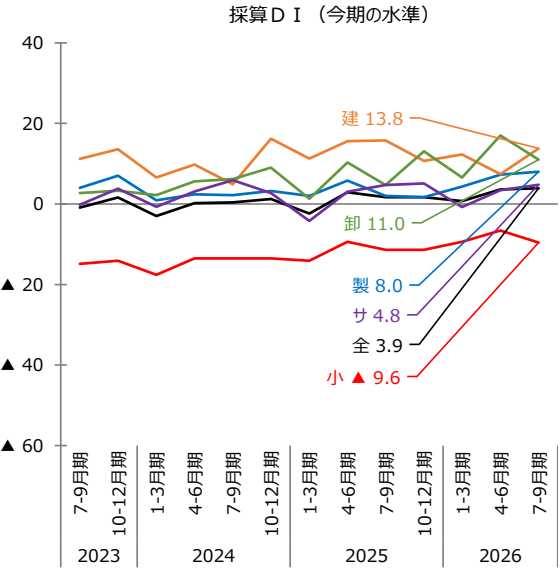
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 近畿



3. 採算

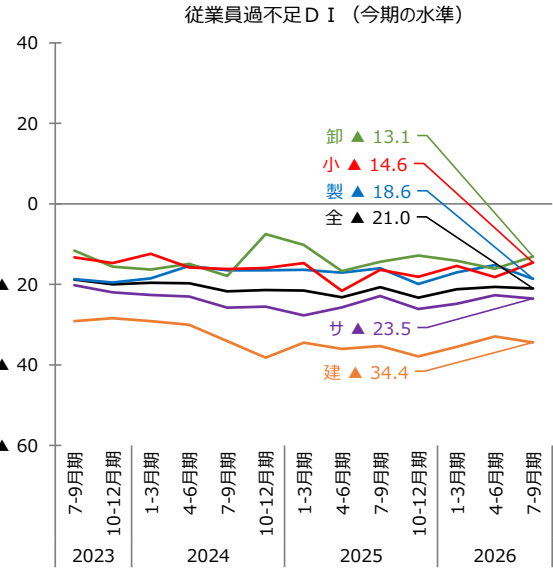
採算DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の3.9とやや上昇し、2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の▲21.0とやや低下し、3期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、建設業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	中国経済の停滞及び中国企業との競合による製品の見直し等や海外の安価な部品との競争が入って来て、単価も上げにくくなってきている。	製造業	金属工作機械製造業
	内製化の推進と人材確保が進み、幅広い業務に対応できる体制が整っている。また、対応力の向上により取引業者も増加しており、業況は順調に推移している。	建設業	一般土木建築工事業
	エアコン2027年問題、各種商品値上げ前の駆け込み需要が続いており、売上伸張。需要先食い感が強く、下期以降要注意。経費・支払金利の上昇などの負担増が懸念される。	卸売業	電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	例年以上に平日、お盆期の来店数が伸び、業況は好調に推移。既存客の販売率の高さに加え、専従者1名による体制で販売単価を抑えた適正価格の提供が支持を集め、7月以降の客数増加と良好な売上に寄与した。	小売業	菓子小売業(製造小売)
	返済金(借入金)減少に伴い、マイクロバス購入のためリース料金が増加。全般的に売上が良くなってきている。できるだけ経費の削減を目指していく。	サービス業	旅館、ホテル
見 通 し	8月より市内に新倉庫を借りることができ、リカバリウェアの製造を進めていく予定にしており、金融機関からの借り入れや補助金の採択を受けることができ、今後の見通しは明るい。	製造業	ニット製アウターシャツ類製造業
	建設工事の予算が少なく発注工事も昨年より減っている。来年以降も不安である。	建設業	土木工事業(別掲を除く)
	業績は概ね堅調に推移しているが、中東情勢を受けた石油関連商品の値上げや在庫不足の影響が続いており先行きは不透明。また円安傾向が継続した場合には業績悪化要因になるため為替推移も心配している。	卸売業	その他の各種商品卸売業
	イランからの物流が既存ルートを使用できず、トルコやアゼルバイジャンなど複数国を経由する代替ルートしかなく、コストが3～5倍に上昇している。当面は在庫で賄えるが、1年後など長いスパンで見ると不安が残る。	小売業	洋品雑貨・小間物小売業
	物価高騰、賃上げが利益を圧迫、今後消費税率もテイクアウト等が1%になると飲食店の店内飲食売上減が予測され、飲食店にとっては非常に厳しい状況が予測される。	サービス業	酒場、ビヤホール

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)